



(出所) 国連開発計画 (PUND) “国連、ベネズエラ国民に共存・対話をテーマとしたアンケート調査を実施”

共存と対話：ベネズエラの声

政治ニュースの多くは扇動目的の人工物

株式会社ベネインベストメント
松浦 健太郎

国 連開発計画 (PUND) は、共存と対話をテーマに、ベネズエラ国民に対してアンケート調査を実施した。

ベネズエラは、与野党の政治的対立が続き、両者には深い溝がある。ベネズエラに社会的な分断があることは事実だが、偏った一部のグループによる対立が強調されている側面があり、静かにしている大多数の無党派の声はかき消されている。

本稿では、政治的な偏りを排除したベネズエラの国民感情について調査結果を基に紹介したい。

ニュースとは「何かが起きた」場合に報じられる。

特に政治分野のニュースは、利害のあるグループが意図的に何かを引き起こし、「ニュースを作る」のが基本で、自然発生的なものは決して多くない。

ベネズエラで言えば、利害のあるグループとは「与党」であり「野党」であり「米国」である。つまり、政治分野のニュースは、この3グループの利害を反映したニュースが多い。

これらのグループが「ニュースを作る」ことが可能なのは、資金力と組織力があり、ネットワーク（情報を拡散する仕組み）があるからに他ならない。

別の視点から見ると、資金力と組織力とネットワーク（情報を拡散する仕組み）を持たない意見は、仮にそれが多数派の意見であってもかき消されがちである。

ベネズエラには多くの世論調査会社があり、それぞれが独自の調査を基に結果を公表している。

一例として、世論調査会社「Meganálisis」は、「マドゥロ大統領の拘束に関して、トランプ大統領に感謝するか？」という質問に92.2%が「感謝する」と回答したとの結果を公表している。

他方、別の世論調査会社「Hinterlaces」は、「米国によるマドゥロ大統領およびフローレス夫人の拘束を拒絶するか」という質問に94%が「拒絶する」と回答したとの結果を公表している。

どちらも同じベネズエラ人を対象に行ったアンケート調査だが結果が真逆になっている。

率直に言って、ベネズエラのアンケート調査会社で完全に政治的な利害を排除して、政治関連のアンケートを行うことは難しい。多くの場合は、顧客の意志を汲み取って、偏ったグループへ質問を行い、大多数の意見をかき消しながら、国民の総意であるように結果を公表する。特に外国に住む人は、複雑な内情を理解できないため、扇動に影響されやすい。

ベネズエラ国内のアンケート調査会社による調査の信頼性が低いという意味で、この国連が実施するアンケートは一定の信頼性が担保されており、国民の意見を比較的反映したものになっていると考えている。

ベネズエラ国民の強いアイデンティティ

PUND が同調査を行った目的は、ベネズエラ国民が「共生」「対立」をどのように認識しているかを把握するためである。

同調査は2025年11月～12月にかけて実施され、ベネズエラ各地の社会経済階層 C・D・E（大衆層～貧困層）に属する18歳以上1295人を対象に対面形式で行われた。

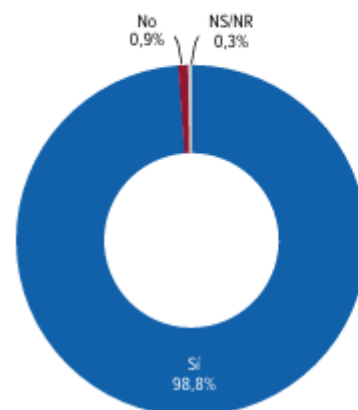
以下では、同調査の中でも特筆すべき結果について紹介したい。

最初は「ベネズエラ国民のアイデンティティ」について。

「ベネズエラ人であることに誇りを持っているか？」との質問に対し、**98.8%**が「はい」と回答しており、**極めて高いベネズエラ人としてのアイデンティティが確立していることが確認できる。**

Figura 1. Orgullo nacional como base compartida de la identidad colectiva

Porcentaje (%) de personas según si siente o no orgullo de ser de Venezuela



次の質問は「考えの異なる人との共存について、どのような感情が支配的になるか?」というもの。

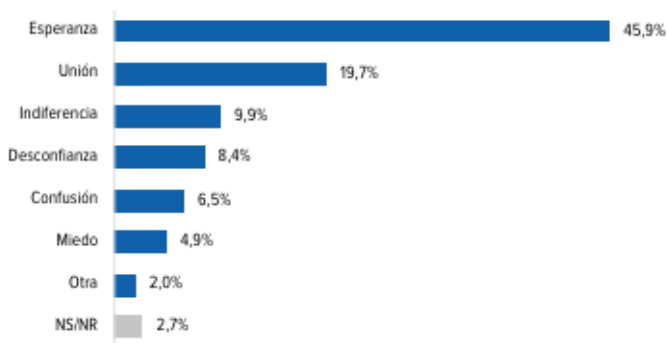
結果は、

- ・希望：45.9%
- ・団結：19.7%
- ・関係ない：9.9%
- ・不信感：8.4%
- ・困惑：6.5%
- ・恐怖：4.9%
- ・その他：2.0%
- ・無回答：2.7%

「希望」「団結」のポジティブな感情が全体の65.6%と多数を占めており、全体としては異なる思想を持つ人を排除する国民性ではないことが伺える。

Figura 2. Emociones predominantes ante la convivencia con personas que piensan distinto

Porcentaje (%) de personas según emoción predominante al pensar en convivir con quienes piensan distinto



Fuente: Elaboración propia basada en la encuesta "Lo que nos une. La voz de las venezolanas y los venezolanos sobre el diálogo y la convivencia", PNUD 2025.

大衆レベルでは対話・共存・合意を重視

同調査で確認された最も重要な点は、**考えの違いを克服する手段として、多くの国民が「対話」「共存」「合意」を重視している**ことである。

「合意が有効と考えるか?」との質問に対して、

- ・異なる立場でも合意は機能し得る：65.3%
- ・交渉は降伏ではなく解決策の模索：86.3%
- ・双方が譲歩するべき：79.9%

との結果が出ている。

国内に対立が存在すると考える人(77.6%)のうち、84.6%が「合意による解決」を支持し、「対立」を支持したのは9.5%にとどまった。

また、多くの人々が、「交渉は解決策を探る手段であり、降伏ではない」「譲歩はより大きな利益を得るために必要」と考えている。

政治ニュースでは、対立を煽る報道が散見されるが、同アンケートでは、**大衆は対立を望んでおらず、合意と共存を望んでいる**との結果が出ている。

Infografía 3. Percepciones sobre la efectividad y el valor de los acuerdos

Porcentaje (%) de personas



Fuente: Elaboración propia basada en la encuesta "Lo que nos une. La voz de las venezolanas y los venezolanos sobre el diálogo y la convivencia", PNUD 2025.

また、「ベネズエラの課題を解決する最も有効な方法」として、「ベネズエラ人同士の交渉と合意」(46.4%)が最も支持された。

ただし、

「市民の政治活動への動員と参加(13.4%)」、

「政治的な圧力の行使(8.0%)」

「外部による解決(8.0%)」

「選挙など国家メカニズム(6.7%)」

など、MCM氏が掲げるスローガンを支持する勢力も36.1%と一定の支持があることが確認された。

「合意と共存」を望む反面、具体的な課題解決手段に関しては絶対的な多数派はないと言えそうだ。

Figura 24. Vía más efectiva para resolver los desafíos del país

Porcentaje (%) de personas según las vías que considera efectivas para resolver los desafíos en la situación venezolana



Fuente: Elaboración propia basada en la encuesta "Lo que nos une. La voz de las venezolanas y los venezolanos sobre el diálogo y la convivencia", PNUD 2025.

ただし、暴力行為については明確な拒否感が確認された。

「国家安定に影響を与える暴力行為に対する感情」に関する質問では、

・暴力は問題を悪化させる：77.4%

・変化のための暴力行使に反対：72.6%

との結果が出ている。

Infografía 4. Actitudes predominantes hacia la violencia y su impacto en la estabilidad nacional

Porcentaje (%) de personas



Considera que una situación de violencia agravaría los problemas del país



Está en desacuerdo con la idea de que se pueda recurrir a la violencia para lograr cambios

Fuente: Elaboración propia basada en la encuesta "Lo que nos une. La voz de las venezolanas y los venezolanos sobre el diálogo y la convivencia", PNUD 2025.

なお、暴力激化時に最も懸念されるのは、

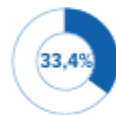
・人命の喪失：33.4%

・家族や親しい人の喪失：23.8%

であり、「生命」や「家族関係」の維持が重視されていることが示された。

Infografía 5. Principales preocupaciones respecto al costo humano de la violencia

Porcentaje (%) de personas



Prioriza al vida de las/os venezolanas/os en general



Prioriza al vida de los seres queridos

Fuente: Elaboración propia basada en la encuesta "Lo que nos une. La voz de las venezolanas y los venezolanos sobre el diálogo y la convivencia", PNUD 2025.

対話の実行には心理的なハードル

多くの国民が「対話」を支持する一方で、対話の実行には明確な心理的ハードルがあることが確認できる。

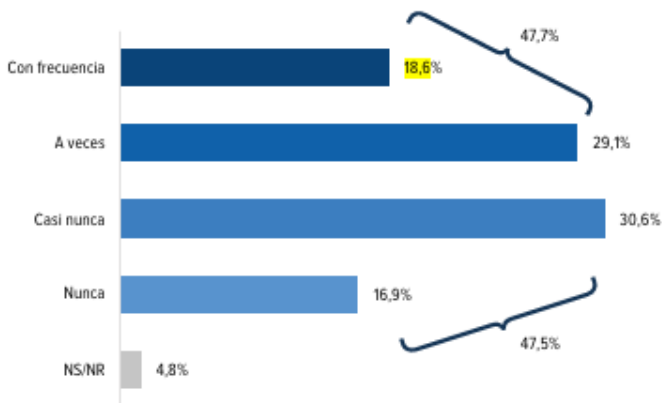
「思想の異なる人と頻繁に政治・社会問題を議論するか？」に関する調査は

- ・頻繁に議論する：18.6%
- ・時々、議論する：29.1%
- ・ほぼ議論しない：30.6%
- ・絶対議論しない：16.9%
- ・無回答：4.8%

「頻繁に議論する」「時々、議論する」が47.7%。「ほぼ議論しない」「絶対議論しない」が47.5%と対話の実行については見解の分断が確認される。

Figura 13. Frecuencia de conversación con personas con opiniones distintas en temas políticos y sociales

Porcentaje (%) de personas según la frecuencia de conversación con quienes piensan distinto en temas políticos o sociales



Fuente: Elaboración propia basada en la encuesta "Lo que nos une. La voz de las venezolanas y los venezolanos sobre el diálogo y la convivencia", PNUD 2025.

議論の実行に心理的ハードルがある一番の要因は、尊重を持った議論が出来なくなるリスクを感じているからである。

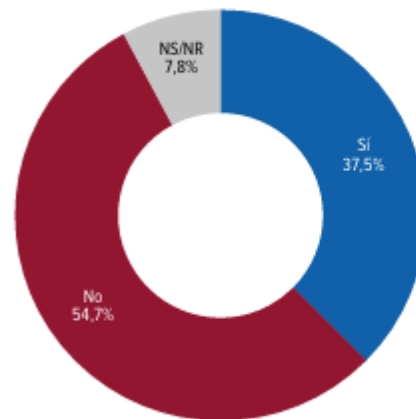
「攻撃的になることなく、尊重を持った議論が出来る環境にあると思うか？」との質問に対して

- ・あ る：37.5%
- ・な い：54.7%
- ・無回答：7.8%

と「(尊重を持った議論が出来る環境に) ない」の回答がかなりの割合を占めている。

Figura 14. Percepción sobre la existencia de condiciones de respeto suficientes para el debate sin agresiones

Porcentaje (%) de personas según su opinión sobre si existe o no suficiente respeto para debatir sin agresiones



Fuente: Elaboración propia basada en la encuesta "Lo que nos une. La voz de las venezolanas y los venezolanos sobre el diálogo y la convivencia", PNUD 2025.

これらの結果を踏まえると、ベネズエラ国民は「対話の意欲が不足している」わけではなく、「敬意ある対話を可能にする条件が不足している」ことが主要課題であると言える。

複雑な政治環境の形成が対話と共存の障害

今回の国連開発計画(PUND)によるアンケート調査は、政治ニュースだけでは見えにくい「ベネズエラ国民の本音」を示す内容だったと言える。

ベネズエラでは、与野党対立や制裁問題などを背景に、「社会が極端に分断されている国」というイメージが国際的に定着している。

しかし、今回の調査結果を見る限り、少なくとも一般大衆レベルでは、「対立」よりも「共存」「対話」「合意」を重視する傾向が強いことが理解できる。

特に注目されるのは、「ベネズエラ人であることに誇りを持っている」との回答が98.8%に達した点。長年の経済危機、大量移民、政治対立、制裁などを経験してなお、強い国民アイデンティティが維持されている。

また、「考えの異なる人との共存」に関しても、「希望」「団結」といったポジティブな感情が多数派を占めており、ベネズエラ社会が必ずしも“相手を排除する社会”ではないことも示された。

さらに重要なのは、多くの国民が「交渉」「譲歩」「合意」を現実的かつ必要な手段として受け入れている点。

特に、「交渉は降伏ではなく解決策の模索」との回答が86.3%、「双方が譲歩するべき」が79.9%、「対立より合意による解決を支持」が84.6%、という結果は象徴的と言える。

これは、政治ニュースで目立つ強硬派の主張とは対照的に、多くの国民が「全面对決」ではなく、「何らかの妥協による安定」を望んでいることを意味している。特に、暴力に対する拒否感が非常に強かった点は重要だろう。

ただし、今回の調査では「国民融和」が容易ではないことも示唆されている。

現在のベネズエラは、敬意を持った議論ができる環境がなく、対話を実行するための心理的ハードルは高い。

つまり、ベネズエラ国民は「対話したくない」のではなく、「対話すると争いの種になる」という不信感を抱えていると言える。この点は、現在のベネズエラ政治の本質を示している部分だろう。

一般大衆レベルでは「対立疲れ」が広がっている一方で、「外部圧力」「政治動員」「圧力による変化」を支持する勢力も一定数存在している。

国民の大多数が平和的解決を望んでいる一方で、「具体的にどうやって現状を変えるか」については、統一的な見解が定まっていないことを示唆している。

しかし、少なくとも、

- ・暴力より安定
- ・対立より合意
- ・排除より共存

を望む大衆感情が確実に存在していることは確認できる。

以上